



大事な人が倒れた！ その時どうします

これからの季節、凍結による転倒、吹雪での視界不良による交通事故などによる救急搬送の例が増えています。

突然倒れた時、あるいは、自分や家族が外出中の交通事故に遭った時、あなたは落ち着いて行動できますか？



救急救命士 の一日



頼みの綱は 119 番！

不慮の事故、その時あなたを救うのは救命の専門家、救急救命士を含む消防署の救急隊です。

救急救命士は「厚生労働大臣の免許を受けて、医師の指示の下に、救急救命処置を行う」国家資格をもった職員のことです。

全国の自治体の救急隊の救急車には常時最低 1 名の乗車が目標とされ、救急救命士が活動する為の仕様になっている救急車を高規格救急車といいます。

当別消防署には現在、15 名の救急救命士が所属しており住民が安心して暮らせるよう、急報に際しては迅速に出動し対応しています。

交通事故発生！緊張が走る



救急出動は多い時には1日4件以上の出動も。夜間の出動では救急活動が朝まで及ぶこともあります。

平成22年2月の実際の事故 通報から緊急処置、搬送まで

- 9:46 救急救助通報（金沢 国道275号線上）
- 9:53 出動途上、通報内容からドクターヘリ要請
- 10:00 事故現場到着
状況：大型トラックとワンボックスカーの正面衝突
- 10:19 ドクターヘリ現場付近に着陸し、医師、看護師を降ろす
*この後、ドクターヘリに、別の出動要請が入り現場に医師、看護師を置いて再び離陸
- 10:49 運転席からけが人を救出（同乗者は事前に自力脱出）
- 11:34 救急車で2名を搬送、札幌市東区の医療機関に到着

一刻を争う時、ドクターヘリも要請

「トラックとワゴン車の衝突事故で、1名が運転席で挟まれている」との通報を受け、救助工作車等複数の消防車と救急車2台が出動。緊急処置が必要と判断し、ドクターヘリの出動も要請しました。現場ではワンボックスカーが大破し、運転手は意識はあるものの、腹部から下にかけて挟まれている危険な状態でした。同時にドクターヘリで到着した医師、看護師がけが人に点滴の医療処置を施しながら、救助隊が大型油圧救助器具等を使用してドアを開き、中からけが人を救出、救急車に収容。医師、看護師も同乗して札幌市東区内の医療機関に搬送しました。



冬型事故には落ち着いて！



加藤勇二さん

例えば吹雪で車の衝突事故にあって怪我をした場合、なれない土地で、カーナビもなかったら、救急車を呼ぶ時に現在地を伝えることも難しいことがあります。心理的に気が動転しているかもしれませんので、冷静な判断で119番をして、消防から聴かれたことは的確に説明することも必要です。もし、車が破損、暖房が止まれば、怪我人の体温が急激に奪われます。もし、重篤の時、防寒着を着ているのとそうでない時は相当の差があるのです。

交通事故に限らず、停電や地震などの災害で冬の野外での事故は体温を保つことを第一に考え、救助をいかに早く呼べるかが鍵となります。当別は雪が多いことから、屋根からの落雪や転落にも十分注意してください。

助かった！体験者の声

その時、時間が止まったように・・・

一昨年（2019年）の11月、靴についた雪で滑り玄関で転んでしまい、頭を強打して動くことが出来なくなった五十嵐志津子さん。足も不自由だったため家族が発見するまでの2時間、ただ助けを待つのみでした。通報した五十嵐潔さんは「玄関で、大量の血の中に倒れていて、気が動転しました。119番しましたが、自分では起こすことも出来ませんでした。」救急車が到着するまでの3分程がとても長く感じたと言います。「隊員の方は体の下に担架を滑り込ませ、ガーゼで傷口を包み救急車に運びました。頭を打っているの、札幌市内の



五十嵐志津子さん（下川町）

脳外科に運ばれ、2週間入院したものの、無事退院することが出来ました。今ではすっかり元気です。あの時、もう少し発見が遅れたら、救急車が来なかったらと思うと、怖いですね。救急隊は頼もしいと思いました。」

救急隊からのお願い

救急車が現場に着くと、「どこの病院に運ばれるの？」とよく聞かれます。患者の状態から判断し、救急当番医をはじめとした医療機関と連絡を取りますが、どこも満床と断られることもあるのです。もしかかりつけ病院があれば、その病院名と持病を隊員に聞かせていただくとスムーズな搬送に繋げることができます。

特に緊急を要しないケガなど、その程度をよく判断の上、救急車を呼んで下さい。重症の患者さんが控え



ていることもあるのです。当番医は広報紙や町のホームページに掲載されているほか、消防署でもお答えします。

既往歴！その情報があなたを救う

不慮の事故、その時あなたを救うのは、情報です。あなたがしゃべることが出来ない時、これまでどのような病気をして、どの病院にかかっていたのか、その記録があれば救急活動の手助けになります。一昨年、町社会福祉協議会より全戸に配布された「救急医療情報キット」にはその情報を書き止め、誰もがわかる冷蔵庫へ保管しましょう。

一昨年7月に全戸配布された医療情報キットを利用した救急搬送はこれまで12件。いずれも搬送先の病院で患者の情報提供に役立ちました。

埋もれてませんか！



あなたもできる応急手当

不慮の事故、知っていると便利なのは、心肺蘇生法、AEDの操作。いずれも消防署で講習会を開いています。また、町内会など団体の要請があれば、出前講習会を開くことも出来ます。講習の申込みなどお問い合わせは



当別消防署救急救助課救急係 ☎ 0133 - 23 - 2537